

○ 評価については、児童生徒の成長の様子を把握します。

道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすようにします。

具体的には、以下の点に基づいて適切に評価を行います。

- ◆ 数値による評価ではなく、記述式であること。
- ◆ 児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止め、励ます個人内評価として行うこと。
- ◆ 優劣を決めるような評価はなじまないことに留意する必要があること。
- ◆ 内容項目ごとではなく、大ぐくりなまとまりを踏まえた評価を行うこと。
- ◆ 発達障害等の児童生徒についての配慮すべき観点等を学校や教員間で共有すること。



教科化に向けて・・・

「これまで」とどう違うのかという点を明確に捉えながら、自校における「今まで」の道徳教育はどうだっただろうか、振り返ることが大切です。振り返りに当たっては、最初に、「変えた方がよい部分」と「継承すべき部分」から考えてみましょう。例えば、「展開はこのままでよいが、発問とワークシートを変えなくてはいけない。」、また、変える場合は、「もう少し詳しく緻密にした方がよい部分」や「新たに考案しなくてはいけない部分」など、見直し方も多様であると考えられます。何よりも、道徳教育の目標の文言を具現化した場合、どのような学習活動になるのかと考えることで、学校で取り組むことが明確になることでしょう。

今後、学校で取り組むこととして、以下のような点が考えられます。



- ① 学校の道徳教育の重点目標を明確にしましょう。
どのような児童生徒を育てたいのか、児童生徒にどのような心を育てたいのか、具体的な目標を設定します。
- ② 学校の重点内容項目を明確にしましょう。
道徳教育の目標に向かって、どのような内容を重点的に指導するのかを明らかにします。
- ③ 重点内容項目に関わる具体的な指導の機会、時期を明確にしましょう。
重点内容項目を具体的に、いつ、どのような機会に指導するかを明らかにします。
- ④ 学校の道徳教育の全体計画及び別葉を作成しましょう。
別葉については、重点内容項目の指導ができているか点検しながら、適宜、修正・加筆していきましょう。
- ⑤ 1 単位時間の概要を示した指導計画（主な発問をあげるなど授業の流れが分かるもの）を作り、学年部の方針等を共通の基盤とした授業を展開しましょう。
- ⑥ 道徳科の特質に応じた授業を積み上げていきましょう。
道徳的諸価値の理解を基に自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、「これからどうしていくか」などの自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を積み上げ、道徳の授業の質的変換を図る必要があります。
- ⑦ 明確な指導観をもって授業を行い、児童生徒の学習状況を把握しましょう。
児童生徒に何を考えさせるのか、教師がしっかりと理解して指導し、授業で児童生徒がどのような学びをしたか、個人内評価でしっかり見取っていくことが重要です。



道徳科の授業が、道徳教育の「要」としての役割をもつことや、道徳教育の補充・深化・統合の場である考えは引き継がれています。「学校での道徳教育を充実させてほしい」という社会からの要請を真摯に受け止め、鹿児島の子どものよさを更に伸ばしていく取組を展開していきましょう。

<このリーフレットは「平成 27 年度県心の教育振興会議」委員の協力を得て制作しました。>



学習指導要領の道徳に係る一部が改正されました (H27.3)

平成 30 年 (小学校)
平成 31 年 (中学校)
全面実施

学校教育全体としての道徳教育の目標 [第 1 章総則]

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方（人間としての生き方）を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

※（ ）は中学校

★ 児童生徒の道徳性を養うという趣旨が明確になるように記載されました。

何がどのように変わるのですか？



変わる部分と継続する部分がありますよ。さあ、リーフレットを開いてみましょう。



Q 「道徳の時間」が「道徳科」となる理由は？

これまで「道徳の時間」に関して、次のような課題が指摘されてきました。

- △ 「道徳の時間」は、各教科等に比べ軽視されがちではないか。
- △ 読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導になっているのではないか。
- △ 発達の段階などを十分に踏まえ、児童生徒に望ましいと思われる分かりきったことを言わせたり書かせたりする授業になっているのではないか。

平成 12 年 教育改革国民会議
教育を変える 17 の提案
「学校は道徳を教えることをためらわない。」
平成 20 年 教育再生会議
「徳育を『教科』として充実させる。」



★ これまでも、さまざまな会議において、道徳の時間の教科化は検討されてきたのです。

「いじめ問題等への対応について
(第一次提言)」
平成 25 年 2 月 教育再生実行会議
◆ 道徳教育の抜本的改善・充実
◆ いじめ防止対策推進法の制定

- ☑ 全ての学校で、全ての先生が同じ程度に道徳教育、とりわけ**道徳の時間の指導**をできるようにならないか。
- ☑ 全ての子供たちの手元に**教科書**が行き渡れば、どの学校でも同じ程度の道徳教育が行われるのではないか。
- ☑ 道徳の時間の指導の結果を明らかにして、**指導改善を図れるようにする仕組み(評価)**をつくれれば指導が充実するのではないか。

中教審答申(平成 26 年 10 月)を受けて…

「道徳の時間」を教科化
特別の教科 道徳(道徳科)
(引き続き週 1 時間)

いじめの問題等に対応するためにも、教科化し人間性に深く迫る道徳教育を!

Q 「道徳科」はいつから始まりますか？

- ・ 小学校は平成30年度、中学校は平成31年度から全面实施
- ・ 全面实施までの期間において、一部改正学習指導要領の「総則」, 「特別の教科 道徳」の趣旨・内容を踏まえた取組が可能



全面实施までの期間において、各学校では学習指導要領及び解説についての研修を行うとともに、自校において何を継続し、何を改善すべきかの検討を行い、可能な点に関しては全体計画や年間指導計画の見直しを行うなど教科化への準備を進めましょう。

Q 「道徳科」と「道徳の時間」はどう違うのですか？

- 目標が明確化されました。

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(中学校「広い視野から」)多面的・多角的に考え、自己の生き方(中学校「人間としての生き方」)についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

現行では「道徳的実践力」

現行では「道徳的価値の自覚」

道徳性を養うために、
◆どのような指導内容、指導方法で、◆どのような資質・能力を育成するのかを示す目標の書き方になっています。

- 内容が改善されました。

- ◆ いじめの問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものに改めました。
- ◆ 内容項目で新たに加わったり、分化・統合されたりしたものがあります。
- ◆ 内容項目に手掛かりとなるキーワードを示しました。
- ◆ 内容項目のまとまりを示していた視点の順序を改めました。



★ 解説の内容項目一覧をご覧ください。

<内容項目数の合計>

校種・学年	改正後	現行
小学校第1学年及び第2学年	19	16
小学校第3学年及び第4学年	20	18
小学校第5学年及び第6学年	22	22
中学校	22	24

<内容項目に応じたキーワード>

例：キーワード 「節度、節制」
内容項目 「健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。」
(小学校第1学年及び第2学年)

<四つの視点>

改正後	現行
A 主として自分自身に関する事	1 主として自分自身に関する事
B 主として人との関わりに関する事	2 主として他の人とのかかわりに関する事
C 主として集団や社会との関わりに関する事	3 主として自然や、崇高なものとのかかわりに関する事
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事	4 主として集団や社会とのかかわりに関する事

Q 指導に当たって配慮することは何ですか？

- 多様な学習指導を取り入れることが示されました。

答申で「多様で効果的な道徳教育の指導方法へと改善すること」と示されたことを受けて、柔軟な発想で道徳科の学習指導を構想していくことが求められました。

今後、配布される教師用指導資料(文科省)を基に、各学校において、どのような学習指導が展開できるか創意工夫することが必要です。



児童・生徒の発達の段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること。その際、それらの活動を通じて学んだ内容の意義などについて考えることができるようにすること。また、特別活動等における多様な実践活動や体験活動も道徳科の授業に生かすようにすること。

【小(中)学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編】

- ◆ 「考える道徳」, 「議論する道徳」への転換が求められています。
- ◆ 児童生徒が多様な考え方や感じ方に接することが大切であり、児童生徒が多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考えることが求められています。主体的に考え、協働して問題を解決する学習、いわゆる「アクティブ・ラーニング」の考え方が取り入れられていると言えます。



★ 冊子『平成27年度道徳教育の充実に向けて』7～23ページ「道徳の授業ヒント集」を活用して授業改善を図りましょう。

